

日 時	令和2年9月27日(日曜日) (14:00) ~ (16:20)
場 所	大庄北生涯学習プラザ3階ホール
資 料	<p>「第4回大庄《未来につなぐ》まちづくりワークショップ レジメ」 「第3回大庄《未来につなぐ》まちづくりワークショップ 会議記録」 「旧大庄西中学校跡地及び南ノロ公園 図面」 「大庄《未来につなぐ》まちづくりワークショップの運営スケジュール」 「大庄西中学校跡地における公園とコミュニティースペースの検討」 「WS第1回～第3回意見①～⑨」 「人口比較表」 「公立小学校児童数の推移」 「大庄《未来につなぐ》まちづくりワークショップ参加者」 「大庄《未来につなぐ》まちづくりワークショップ事務局出席者」</p>
内 容 ・協議事項 ・決定事項 ・連絡事項 など	<p>1 開会の挨拶 (所長挨拶後、事務局より本日の進め方、配布資料の確認)</p> <p>市 : 第3回WSの会議記録については、修正や加筆等あれば事務局まで連絡をしてほしい。「WS第1回～第3回意見①～⑨」のなかで記載漏れの意見など修正が必要なものがあれば言ってほしい。この意見については次回以降の部会意見も含めて改めて論点整理をしていきたい。</p> <p>2 大庄西中学校跡地における公園・コミュニティースペースの検討、及び大庄地域の人口、児童数の課題について市からの説明 (資料「大庄西中学校跡地における公園とコミュニティースペースの検討」、「人口比較表」「公立小学校児童数の推移」に沿って説明)</p> <p>参加者: 資料では、継続的に管理運営する地域住民が主体の法人格とあるが、管理運営費は出るのか。それとも法人格をもった団体がボランティアでやるということか。</p> <p>市 : それは次の段階の話で、まず、地域の方が主体となって管理運営をするような空間を確保し、自由な活動をするのかどうか、そういう機運があるのかということを確認したい。</p> <p>参加者: 法人格がいるということだけが決まっているということか。</p> <p>市 : 期間限定でやるということなら必要ないと思うが、継続的にということになると個人が責任を負ってやるのは適当ではないと考えている。</p> <p>参加者: 現在、おもしろ広場でやっている、いらなくなったものを集め貧しいお年寄りの方を中心にそれを供給したりしている「ものの集積場」についての記載がない。今ある技術室のようなものが活用できないかという議論が必要である。また、地域で管理していくということに関しては、東高跡地で5,000㎡くらいの土地が地域に委ねられ、結果的にNPO団体が活用している実態がある。これは非常に重要な参考例ではないかと思っている。</p> <p>市 : まず「ものの集積場」についてであるが、表の記載漏れ等は追記してもらえばよい。東高跡地については、有償で尼崎市が土地を貸すという条件で公募し、既存のNPO法人が子供たちにサッカー、野球、陸上を教えている。大庄西中跡地でも土地を有償で借りて同じようなことをやりたいという意見があればもう少し詳しく説明したいと思うが少しケースが違うと思う。</p> <p>参加者: 人口の資料は平成20年からのデータで、児童数の資料は平成25年からのデータになっている。数字のまやかしである。児童数も園田がいかにも増えているようにみせているが、平成25年度からのデータなら十数人しか増えていない。子</p>

供がいる世帯でも子供が学校に上がる時には他市に転出する。尼崎市の教育、子育て政策が間違っているのだと思う。児童数については、25年度からの資料にするべき。

市 : 人口の資料を平成25年からにしているのは、法改正によるもので、それ以前の人口の数値では、外国人の方が住民基本台帳に載ってこないことからそこで分けている。

参加者 : それなら両方25年からにすればいい。

市 : 教育の話は、市長が3期目の公約のなかで、学力の向上というものを掲げている。今現在も取組中であるが、直近では全国平均にほぼ差異のない状況まできている。児童数の推移の資料については、次回、25年度からのものも用意する。

参加者 : 地域団体を認めていくという意味が市にあるということか。

市 : こういった取り組みは尼崎市には事例がないが、第1回から第3回までのWSのなかでおもしろ広場はどうか、自由に使える空間がほしいという意見が多くあった。庁内で検討するなかで、こういう形でやることはできるかもしれないが、地域が主体的・自主的に、利用ルール、マナーづくり、課題解決も含めどれくらいできるのか、その部分にかかっている。その部分の責任、覚悟をもってやろうというみなさんの意見があればできる可能性があるということで資料を作った。

参加者 : 先般のWSでは、そうではなく、公園そのものを自由化していき、みなさんが自由に遊びに来れるような形にと話が進んでいたと思うが、わざわざ地域団体を記載したのには何か意味があるのかなと感じた。そういう意思のもと今後のWSを進めていくという市の意思なのかを確認したい。

市 : 案1、案2、案3のどれに市がしたいというものではない。現状では、一般的な公園では様々な制約があるが、制約を超える範囲についても地域が一つにまとまってやっていけるのかということが、議論してほしいところである。また、公園という位置づけでは困る、もっと自分たちはやりたいことがあるということならば案3のイメージだと思う。市の方が、やりたい、させたいというようなことは考えているわけではない。第3回WSのなかで、おもしろ広場の代表の方からたくさん資料をもってこれまでおもしろ広場でやってきたことや、これからこうしたいんだということを述べてもらったが、それを受けて議論するために作った資料である。

参加者 : 市が関与しづらい部分ばかりで、市としては責任を負えないということであえて書いていて、そういうことも踏まえてワークショップを進めていこうという意図があるのか。我々の認識では、前はもっとオープン化した公園という話だったと思うが、それも検討対象に含めて議論してくれということなのか。前回までの流れと違うことが資料ですてくると、何のために議論してきたのかなという思いになる。

市 : 今までの意見では、10年前の提言を踏まえて、南ノ口公園を移転させて公園を作りましょうというのが案1のイメージ。ただ、これまでのWSで、こんなことがしたいという意見がだされたと思う。その内容については、都市公園法上はできるけれども、実際には規制や制限があるなかで、それを越えてこんなことがしたいという意見だったと思う。その部分を乗り越えるためには地域で団体をつくって、みなさんがそういう意思をもってやるということであればできるのではないかという整理をした。

参加者：私が言いたいのは、こういう資料をたくさん作ってもらっては結構だが、事前にこういう資料は我々に与えるべき。突然今日の会議で見せられて、説明されて、その場で判断していくことになる。我々、何をしてきたのかなという疑問を感じるのと同時に、市は本当は何をしたいのか、もっと市としてこうしたいということをはっきりと本音で言ったらいいと思う。正直、探りながら議論をしているようでおもしろくない。複雑な気持ち。

市：資料は直前になるが事前に配布するよう考えたい。

参加者：資料「大庄西中学校跡地における公園とコミュニティースペース」の運営・利用に関することについて、市の場合と地域団体の場合で何が違うのかわからない。それと管理が行政と記載されているところは市は何をやってくれるのか。違いはなにか。また、人口が減っていて、定住促進する為に土地の売却が必要という説明だったが、人口が減っていくのになぜわざわざここに住宅を作る必要があるのか。文化住宅等がたくさんあり、今後、取り壊されて宅地になっていくのではないか。

市：案1は、都市公園法上の公園で管理は行政が行う。たくさん○を付けているのは地域のみなさんが運営に関わっていくことで公園であっても様々な利用ができますよというもの。案3は管理も運営も地域でやるというもの。より色んなことができる。ただし、案3については、どんなことがしたいということを市が判断するものではないと思うので○をつけていないという整理である。

参加者：そんなことを我々に求められても困る。

市：みなさんからの意見で、公園ではない空間を作りたいということがWSのなかであったのでここは議論が必要である。住宅開発については、尼崎市が主体的に住宅開発できるのは市有地に限られる。文化住宅などは個人の財産である以上限界がある。我々は大庄地区にとって住宅開発は必要だと考えている。

参加者：住宅が減ったから人口が減ったという認識なのか。

市：ファミリー世帯の定住転入というのは、住宅を建てたから解決するという単純な話ではない。市民アンケートを見ても、住宅が狭小だから転出したという意見や、教育があまり良くないからという意見、治安やマナーが悪いといった意見もある。様々な要素があり、住宅開発するだけで解決するとは思っていない。

参加者：大庄地区だけ突出して減ってきている原因というのは何か。6地区同じように政策を進めていけばそういうことにならないと思うが、大庄地区に貧しい世帯が多いのか、古い住宅が多いのか。

市：そこまで分析できていない。

参加者：このWS内の質問なので、時間を頂いて別途分析させてもらってから報告させてもらう。

参加者：古い家が多いから人が減っているのなら新しい家を建てて人を入れることも一つなのかもしれないし、そういうこともWSで話していかなくてはならないのかなとも思う。何に原因があるのかというのが情報としてあるのかなと思って質問した。

市：市有地を住宅開発すると人口が一定期間増えるというのは統計上でしているが、大庄地区の既存の住宅の分析まではできていない。

参加者：お金持ちの高齢者ばかりが引っ越してきても目的は達成できない。そこに何か考えがあるのか。

市：検討させてもらう。

参加者：話はずれるが、是非、武庫川駅、センタープール駅周辺を都市開発してほしい。他の地域の成功例を南部地域でもやってほしい。

参加者：人口の資料については、大庄地区で若いファミリー層の減少率が他地区より高いから公園用地を住宅開発させてほしいという意図で示しているということではないか。

市：第2回WSで市の考え方を示したが、3つの案全てに住宅開発が入っているという意見を受けて、なぜ市がそう考えたのかという情報を共有してもらおうという意図である。市としては、大庄西中跡地についても住宅開発することが地域にとっても必要だということを伝えたい。

参加者：この資料だけみると荒っぽい理屈だと思う。大庄地域では60代以降の比率が他地区より高いが、10年後、20年後には亡くなっていく方もおり、今住んでいる持ち家は一定建替えられたりするという要素がある。このデータをみると空き家や老朽家屋が多い可能性があって、その建替え促進が図られていく傾向が見て取れる。駅前のマンションについては、塚口やJR尼崎などでは売れていっているが、あえて市がこの交通利便性が悪いところで住宅開発しても売れない傾向が強い。今がタイミングではなく、周辺が建替えなど民間開発が済んだ後で、それでも住宅が足りなければ家を建てられるように市有地として置いておくべきだと思う。周りの開発が進んでいない、土地の値段が低い、そういったなかで、今、売却するのは目先の金欲しさに政策が誤っていると思う。

参加者：土地を民間に売却するかどうかみんなモヤモヤしている。そこがなければ前向きな議論ができるが、そこが抱き合わせで議論されるとモヤモヤのなかで話を進めることになる。そこをはっきりさせてほしい。

市：次回の公園部会の為にこの後、公園とおもしろ広場、ここではコミュニティスペースと呼んでワークショップをさせてもらいたいですが、住宅についても様々な意見があると思う。市としては、人口減少や少子高齢化のなかで、課題解決のためには住宅開発が必要ということで資料の説明をさせてもらった。みなさんには市の考え方の是非を問うというよりは市の考え方を踏まえた上で、地域の課題に対してどのような解決策があるのか、解決する為にこの跡地を使ってどのようなことが実施できるのか、という視点で、ワークショップのなかで議論していただきたい。住宅については、部会の後に改めて時間を設けていくつもりなので、公園のワークショップに入らせてほしい。

3 ワークショップ形式による各メンバーの意見について

(各テーブルの参加者で意見交換を行い、意見を取りまとめて発表)

市：個々の活動については既に一定意見が出ているので、公園とコミュニティスペースの検討と次回公園部会になるため、公園、やコミュニティスペースの規模や配置、形状についても議論してほしい。

A テーブル発表意見

- ・残りのスペースは全面公園にするべき。
- ・住宅開発は反対。
- ・住宅開発についてはアクセスが悪い、子育て世帯が必ずしも増えるかわからない。

- ・住宅開発の目的が不明確。
- ・百歩譲って住宅開発することを認めざるを得ないのであれば地域みんなの同意を得るように話を進めてほしい。
- ・公園については、都市公園とコミュニティースペースを明確に分けることで地域と市で管理するところを分ければいいのか。
- ・コミュニティースペースは管理ルールを明確にして、独占使用ができないようにするべき。
- ・防災公園を必ず作ってほしい。直流型の防火水槽、塩江の緑遊公園にある仮設トイレ等。
- ・駐輪場は4カ所以上ほしい。
- ・公園の配置、形を明確にして議論を進めるべき。

B テーブル発表意見

- ・公園の大きさについては、公園と体育館など色々行政の方で考えて作るとしても余剰地はできるが、その余剰地も含めて公園にするべき。
- ・管理運営面では、管理をいきなり地域がというのはなかなか難しい。今現在、期間限定で、ある程度見通しがたっているのだから、地域の人々が協力してできている部分が多いと思う。継続的にするのであれば、行政ももう少し、管理の部分や金銭面で協力してもらわないと地域での受け皿もなかなか難しい。
- ・地域がどこまでやるのか。行政がどこまでやるのか。普通の公園の〇が書いてある部分についてもどこまで法律上決まっているのか決まっていないのか確認事項ということが話のなかででた。

C テーブル発表意見

- ・住宅開発、体育館、公園などの話があるが、市として住宅地の売却をするのかしないのかをしっかりと示してほしい。
- ・この跡地にどのような要素がくるのかを示してもらわないと、公園、コミュニティースペースに割ける面積がわからない。公園の議論も深められない。
- ・一部を住宅地にするにしても公園と住宅地を自由に行き来できるなど機能面の充実する活用をした方がいいのではないかな。
- ・ただ単に売るというだけであれば、その部分を全てコミュニティースペースで使ったらどうか。
- ・管理運営面では、管理や施設整備に関する事は行政が行い、運営・利用に関する事は地域団体で自由に使えるスペースにしてはどうか。

4 今後のまちづくりワークショップの進め方

市 : 今日で全てまとめるというのは難しいと思うので、本日いただいた意見をまとめて、次に進めるように整理したい。みなさんに諮りたいと思うが、次回は予定どおり公園部会に入ってもいいかな。これまでの意見に加え、部会の意見、ここに参画されていない方の多様な意見も踏まえて意見をもらい、そこから意見をとりまとめていく作業に入っていきたいと思っている。
意見はないようなので次回公園部会に入らせてもらう。

5 その他

市 : 今後の運営スケジュールについて、次回の公園部会は、主たる事務局として公園の部署と大規模市有地活用担当の共同で進めていくことになる。また、その次は従来なら施設部会を続けてやるつもりであったが、本日は体育館の話が全然できていないので、まちづくりWSを部会に挟む形で実施したうえで、施設部会に入りたい。今のところ、1月31日の第6回ワークショップで意見をとりまとめることになる。予備日については、一応3月まで取らせてもらっている。

参加者：公園部会はコロナ禍のなか、人数制限はあるのか、入れない人がいたらどうするのか。

市：コロナ対策をしっかりしながらと考えているがこれから決めていく。なるべく多く入れるようにと考えているので、決まったらお伝えする。

以 上